

がん対策の

ニュースレター



日本は、2人に1人が“がん”になり、3人に1人が“がん”で亡くなる世界トップクラスのがん大国です。がんの6割が治る今、がんを抱えながら働く人も増えています。これから一緒に、がんについて学んでいきましょう！ぜひ、あなたの大事なご家族や、職場のみなさんと読んでみてください。



Dr.中川のがん通信 全国健康保険協会加入者を対象とした がん検診・がん対策に関する実態調査ダイジェスト

こんにちは。がん対策推進企業アクション議長の中川恵一です。皆さんの会社ではがん検診や、がん罹りの方の就労支援が行われているのでしょうか？

この度、私たちは中小企業における「がん対策」の実態を把握すべく、2017年1月に全国健康保険協会（協会けんぽ）加入者を対象としたWEB調査を行いました。対象となられたのは①「**経営者または従業員向け検診の状況を把握する者**」1,508人、②「**（一般の）被保険者**」1,557人、③「**被扶養者**」515人です。

これまで被保険者のがん検診受診率のデータはありました。しかし就労支援まで含めた事業所のがん対策の実態や、被扶養者のがん検診受診状況まで踏み込んだ調査はこれが初めてです。今回の調査では同時に、全対象者に「がんに対するリテラシー」調査も実施し、リテラシーと検診率および就労支援状況の相関についても調査しました。ここで言うがんに対するリテラシーとは、がんに関してお持ちの基礎知識を点数で評価したものです。

結果をダイジェストでお伝えして行きたいと思います。

まず被保険者の検診受診率は、胃がん42.3%、肺がん42.0%、大腸がん28.4%、子宮頸がん48.2%、乳がん53.3%という結果でした（※資料1）。被扶養者の部位別がん検診受診率は、胃がん22.6%、肺がん28.1%、大腸がん28.4%、子宮頸がん45.7%、乳がん45.3%という結果でした（※資料2）。

扶養者に対する会社の補助制度が未整備であることを割り引けば、比較的高い数値だったと言えるかもしれません。女性は女性特有のがんに対する意識が特に高く、自治体検診等を積極的に利用

しており、要精密検査判定後の精密検査受診率も高いものでした。

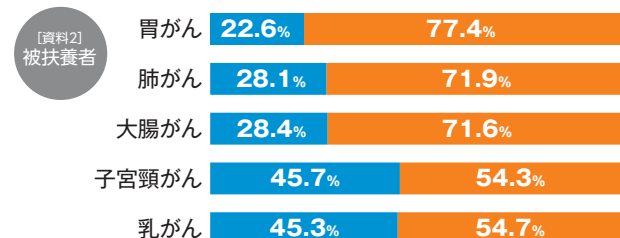
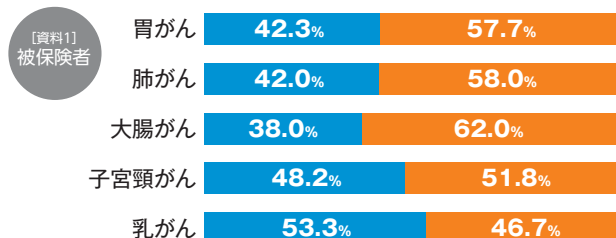
経営者、社内で従業員向け検診の内容を把握する立場にある方、従業員のがんに対するリテラシーとその会社のがん検診受診率には、はっきりとした関係がありました。要するにがんに対する知識があるほど検診受診率が高く、逆もしかりという結果でした。一例として具体的な数値を挙げれば、「経営者または従業員向け検診の内容を把握している者」をリテラシー高・中・低の3群に分けて高い群と低い群で比較した場合、胃がん45.3%対25.6%、肺がん30.7%対19.6%、大腸がん37.9%対19.1%、子宮頸がん23.7%対9.4%、乳がん25.2%対11.9%（※裏面・資料3）と顕著な結果でした。企業におけるがん教育（特に経営層に対する教育）が、企業で働く方々とその家族の健康を守る役に立つ可能性を示しており、今後の具体的な教育プログラムの開発や実施が期待されます。

がん検診を実施しない会社とその理由を尋ねたところ、経営者では、①がん検診の受診は各個人に任せているから ②法定検診ではないから ③会社の費用がかかり経済的負担にもなるから、がトップ3でした。

従業員では、①今のところ特に心配していないから ②受診費用がかかるから ③会社から受診の案内がこないから（裏面に続く）



■検診受診率 ※胃がん・肺がん・大腸がんは男女40歳～69歳、子宮頸がんは女性20歳～69歳、乳がんは女性40歳～69歳 ■ 受けた ■ 受けていない



④受診する時間がないから ⑤会社を休みにくいから

被扶養者では、①今のところ特に心配していないから ②受診費用がかかるから ③受診する時間がないから ④配偶者や親などの会社から受診の案内がこないからなどの理由が上位を占めました。

従業員の自主性に任せたい経営者側と、会社からの支援を期待する従業員やその家族の間に意識のズレを感じさせる結果でした。従業員や被扶養者の約半数が「今のところ特に心配していないから」を、がん検診を受診しない理由のトップとして挙げていました。

がんに対する強すぎる不安も問題ですが、全く心配しないのも適切な対策を妨げてしまうでしょう。今回の結果を踏まえ私たちも、働く場においてがんが学ばれ語られるお手伝いをますます充実させて参りたいと思います。

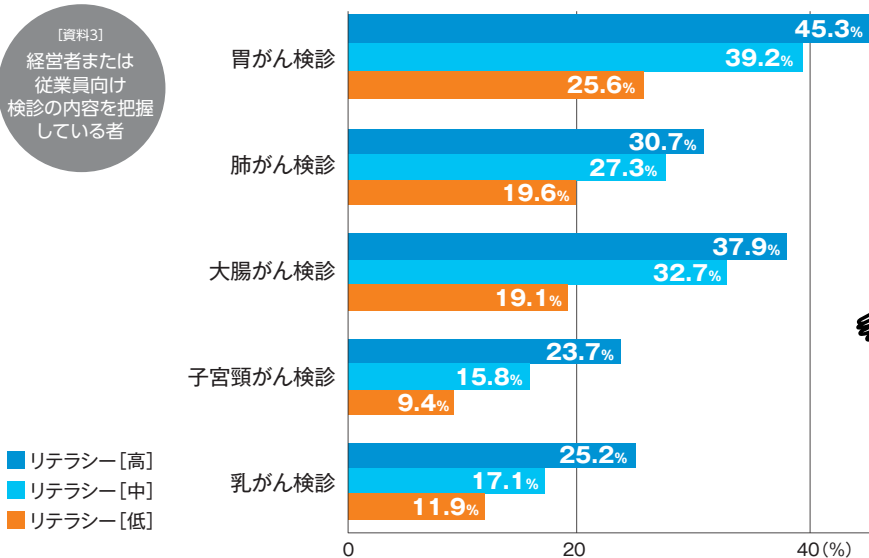
中川 恵一（なかがわ けいいち）

東京大学医学部附属病院放射線科准教授。厚生労働省の「がん対策推進協議会」委員、「がん対策推進企業アクション」アドバイザーボード議長。「がんのひみつ」（朝日出版社）などのがんに関する著作多数、現在毎週日曜日、日経新聞朝刊で「がん社会を診る」連載中。

■経営者側のリテラシーと事業所における「がん検診実施状況」

※経営者側として「経営者または従業員向け検診の状況を把握している者」を回答者として、がんに対するリテラシーとがん検診実施状況の相関を見たもの。
※数値は、事業所として従業員向けがん検診を行っている率。

〔資料3〕
経営者または
従業員向け
検診の内容を把握
している者



冊子のご紹介

がん検診のススメ 第3版 内容のご紹介

「がんを知り、がん向き合い、がんを負けない」ための情報を盛り込んだ冊子『がん検診のススメ 第3版』。2人に1人ががんになる日本。働く人やその家族の命を守るためには、がんについての知識を持つことが欠かせません。また、がんになっても働き続けられる環境づくりも大切です。

●この冊子は「がん対策推進企業アクション」の推進パートナーに新規登録していただいた企業の皆さまにお配りします。



このニュースレターは、がん対策推進企業アクションのパートナー企業の皆様に毎月1回お届けいたします。がん検診啓発ツールとしてお役にください。



●お問い合わせ先
がん対策推進企業アクション事務局
厚生労働省委託事業
平成28年度「がん対策推進企業等連携事業」
Tel. 03-3823-0056 Fax. 03-3827-1995
E-mail : info@gankenshin50.mhlw.go.jp